

流山市少年野球大会競技特別規則

流山市少年野球連盟

第1条 目的

1. 流山市少年野球連盟が主催または主管する大会の競技について、大会競技規則は最新年度「公認野球規則」並びに全日本軟式野球連盟が発行する「最新競技者必携」を適用するほか、流山市少年野球連盟の「大会競技特別規則（以下「本規則」という。）」を定め競技の円滑化を図ることを目的とする。なお、この本規則に記載のない事項があった場合、大会本部役員並びに審判部にて協議のうえ決定する。
2. 千葉県大会など外部団体が主催または主管する大会に出場する場合は、本規則で定められた規則にそぐわない項目や本規則にない項目が定められているので、外部団体が採用している規則を遵守すること。

第2条 チーム構成及び大会登録書

1. チーム構成は、千葉県少年野球連盟に提出する県登録書に届出された指導者・選手（介護員は含まず）から構成された、代表者、監督、コーチ（2名）、スコアラー、介護員（ビブス着用）2名以内（保護者）と選手（小学生）は9名以上 25名以内とする。ベンチに入っている指導者は、認定指導者有資格者1名以上を含むこととする。（ただし、新規加盟チームに於いては1年間の猶予をあたえることとする。）
2. 出場チームは、本連盟規約、本規則を遵守すること。参加する選手数が8名以下（1・2年生を除く）のチーム同士の連合は認める。
※連合は選手数が少ないチーム同士数チームでも可能とする。合同チームの中の1チームの選手数が9名を超えても連合していた他のチームの選手数が満たない場合は救済措置として認める。ただし本連盟会長の承認を得ることとする。
3. 前項や、他チームからの補強やその他の不正を行うことを禁止する。これに違反した場合は没収試合として相手チームに勝利を与えるものとする。違反したチームに対しては、後日協議し処分を通知する。
4. 大会登録書は抽選会の 1週間前までに事前に事業部長までにメールにて送付して頂くことで大会参加として認める。
（友遊ボール大会は除く） 変更が有る場合は開会式時に2部提出する。それ以降の変更は認めない。AブロックBブロックの監督、コーチ（背番号）の重複は認めない。ベンチ入り代表はチーム届出代表以外の者でも構わないが県登録者に限る。

第3条 服装・用具

1. 監督、コーチの服装は選手と同意匠とする。（大人のユニフォームのロングパンツは認めない。選手に合わせてストッキングが見えるようにする。）夏場であってもアンダーシャツを着用すること。
代表者・スコアラー、介護員（ビブス着用）の服装は、平服としチーム帽子を着帽し、靴は、運動靴（アップシューズ可）を着用する。
2. ユニフォームの左袖には、日本字またはローマ字で都道府県名（千葉県）を入れる。それ以外の、商標等を入れることはできない。なお、右袖にはチームマスコット等を付けることは差し支えない。
胸のチーム名は日本字またはローマ字で表示し、チーム名の代わりにマークを付けることができる。
3. 背番号は、監督30番、コーチ28番・29番、主将10番、選手は0から27番までとする。背番号の色、意匠は統一する。ただし連合チームの場合は所属チームのものとする。
4. スパイクシューズは、監督、コーチ及び選手は同色でなくても良い。 ※金属製の使用は禁止する。
5. ヘルメットは、「JSBB」マーク入りで両側にイヤークラップの付いたものを、最低8個用意する。ひび割れ及び内部の保護材が取れているヘルメットは使用禁止。打者、次打者、走者、ベースコーチ2名、ボールボーイ、バットボーイは、必ず着帽すること。注）JSBBの文字が消えて確認できない場合は使用できない場合があります。
6. 捕手（控え捕手も含む）は、マスク（スロートガード付、1体化も可能）レガース、プロテクター、ヘルメットを使用する。ファールキャップは着用を励行する。（女子選手は除く）SGマークについてはJSBBより規定が延長される。

7. 使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「J 号球」とする。金属バットは「J S B B」マーク入りの公認のものに限る。但し、木製バットはその限りではない。変形・加工バットの使用は禁止する。
8. 投手の守備を除く、選手（打者、守備）の手袋及びリストバンドの使用は認める。色の規制はないが、蛍光色等あまり派手でない色を使用する。
9. サングラスの使用は投手を含め使用可。ただし、ミラーサングラスは使用不可。ベンチ入り指導者はトスアップ時に申告して許可をえる。サングラスを着用せず帽子等にかけては着用してはならない。

第4条 開会式

1. 大会の開会式での選手宣誓は、試合組み合わせ抽選時に抽選によって選ばれたチームの選手が行う。
2. 大会開会式での各チームの集合時間は、開始時刻 30 分前までに受付を終え、選手を指定の入場行進場所に整列させること。（写真撮影を行う場合がありますので、係員の指示に従って下さい。）
3. 各チームの入場行進は、先頭から前回優勝チーム、準優勝チームの順とし、続いて本抽選番号の若番から順次行う。
4. 大会に出場する選手は、全員開会式に参加するものとし、特別な理由がない限り、これに違反した場合は、試合に出場することができない。（学校行事で選手が参加出来ない場合は、指導者が代理で行う。）

第5条 試合の集合時間及び準備

1. 第1試合のチームは、試合開始予定時刻 1 時間前までに集合し、球場責任者による受付を終了すること。第2試合、第3試合、第4試合のチームも同様とする。
2. 雨天等で大会の開催が危ぶまれる場合は、各チームの代表者が、あらかじめ指定された大会責任者に確認し、その指示に従う。
3. 各チームはトスアップ（攻守決定）で呼ばれる前にはメンバー表 5 部を準備する。アップ会場へはメンバー表を本部に提出後に入場する。（注：『今、書いている』とか『後から持って行きます』は認めない。トスアップ前までにメンバー表提出がなかった場合は、監督のベンチ入りは認めない。当日監督が不在の場合は、大会登録書の監督以外は認めないため、監督欄は記入せずベンチ入りコーチが代行する。監督以外のベンチ入りスタッフの変更は可能とし変更者に○印をつけること。Aブロックの選手で4年生以下の選手がいる場合は、背番号に○印をつけること。）
4. 参加登録書に記載されていない選手（新規入部者等）がいる場合は、トスアップの時に申告して相手チームの了解を得てからベンチに入れてあげて下さい。試合への出場は出来ません。ただし、ユニフォームは着用させて下さい。怪我等でテーピングを巻いている場合及び寒い時期に軽便カイロを使用する場合も同様です。
5. ベンチは、抽選番号の若番が1塁側とする。攻撃の先攻・後攻は、メンバー表提出時に、トスにより決定する。
6. 試合前のシートノックは、後攻チームから開始し、時間は5分以内とする。但し、前試合の遅れ又は天候不安等が生じた場合は、短縮又は中止して試合を開始する。
7. シートノック時、ユニフォーム着用指導者は、内・外野のシートノックと、選手からの返球されたボールの捕球及びブルペンでの投球練習の捕手を行うことができる。
8. シートノックを行う監督又はコーチにボール渡しをする選手は、ヘルメットを着用のうえ、ノックをする指導者の後ろからトス渡しとする。球審へのボール渡しをする選手も同様にヘルメットを着用する。
9. ベンチ入りの代表者、監督、コーチ等の指導者がシートノック開始からゲームセットまでの間ベンチを離れた場合は、退場したものとみなし再びベンチに戻ることはできない。ただし、特別な理由（トイレ等）の場合、審判員の許可を得れば、この限りではない。
10. 大会当日、大会使用前に本連盟が予約していない時間帯を自チームで予約して大会使用グラウンドを使用する事を禁止する。

第6条 試合時間等

1. 試合は、トーナメント戦とする。
2. 試合は、1試合6回戦均等回で勝敗を争うこととするが、タイムゲームを最優先とする。
1試合1時間30分を超えた時は、新しいイニングに入らず、その時点の得点をもって勝敗を決する。決勝戦も同様

とする。攻守交代は、1分以内で行う。Bブロックは1試合5回均等回で1時間15分で行う。

3. 気温が高い場合は大会本部が健康維持を考慮し、Aブロック3回終了時Bブロック2回終了時で給水タイム5分間取り、試合時間を止めます。打者一順した場合は給水タイムを取ります。時間は止めないので守備側選手はグラウンドにグローブを置いてベンチに戻って給水して下さい。
4. 得点差によるコールドゲームは、Aブロックは3回均等回終了後以降10点差以上、及び4回終了後以降7点差以上のとき適用する。Bブロックも3回均等回終了後10点差以上、及び4回終了後以降7点差以上のとき適用する。4回表が終了した時点で後攻チームがリードの場合4回均等回終了とみなしコールドゲームを適用する。Bブロックも同様とする。(決勝戦も同様に適用する。)
5. 日没・降雨によるコールドゲームの適用は、Aブロックは4回終了後とする。Bブロックは3回終了後とする。また、4回終了前または4回終了後(Bブロックは3回終了前または3回終了後)であっても同点の場合については、再試合とし、後日の第1試合前に行う。この場合もタイムゲームを最優先とする。日没・降雨の判断は、大会本部、当該試合責任審判員が協議して決定し、両チームの監督に伝える。(決勝戦も同様とする。)
6. 一試合のタイム数の制限：Aブロックは6回で攻撃側3回、守備側3回、Bブロックは5回で攻撃側2回、守備側2回、特別延長戦の場合は、1イニングにつき1回とする。守備時に3人以上集まればタイム1回とみなす。

第7条 試合

1. 同一投手の投球制限は、Aブロックは1日70球以内とするが4年生以下は60球以内とする。Bブロックは1日60球とする。ただし、Bブロックについては準決勝・3位決定戦・決勝以外の試合は、1試合3回(特別延長を含め9アウト)とする。2試合ある場合は、2試合目も同様とする。(1日の合計6イニング18アウトとする。)
 - ア. 69球でイニング終了しても、次のイニングの1人までは投球を認める。
 - イ. 打者と対戦中に申告敬遠しても、それまでの球数はカウントする。
 - ウ. 打者への投球ボークは球数にカウントする。
2. 試合中、ベンチ内で指示を出せるのは監督、28番29番コーチのみ、その他のスタッフから指示は出来ません。ベンチ外であっても同等の場合はチームの責任となります。(場合によっては退場になります。)
3. 試合中は、監督・選手以外は基本ベンチからは出られません。ただし、以下の範囲でコーチはベンチを離れることができる。
 - ア. キャッチャーの防具装備(必ず指導者が手伝ってください。)
 - イ. イニング間の準備投球の捕手。
 - ウ. ブルペン捕手。円陣や選手を迎えにベンチ前に出られませんので注意すること。Bブロックのコチャーズボックスに入る指導者は、円陣に加わらず駆け足でコチャーズボックスに入ること。
4. 頭部及び審判が認めた死球には臨時代走(コーティシーランナー)を認める。代走は、打順前位の者、ただし投手捕手を除く。
試合中に怪我した場合は介護員(保護者)が出て手当すること。それ以外のスタッフは審判員からの指示が出るまでベンチから出ないこと。
5. その回の先頭打者は、準備投球が終わるまで次打者席(ネクストバッターボックスサークル)で待機すること。次打者席では、投手が投球動作に入ったら、素振りをしてはならない。
6. 選手交代を行うときは、監督(監督不在の場合は監督代行)が球審に申告する。
7. メガホンの使用は、監督(監督不在の場合は監督代行)に限り認める。
8. 監督が投手と協議するときは、マウンドまで駆け足を励行すること。また、選手への指示についても同様とする(簡潔指示の励行)但し、同一イニングに同様の行為を2回行った場合は、投手を交代させる。
9. アウトをとる意志のない投手の塁への送球は、遅延行為とみなし、ボークを宣告する。それ以外で残り時間が少ない時間で、時間を稼ぐための不要な選手交代やタイム等は審判が遅延行為とみなした場合は認められません。

第 8 条 マナー

1. 試合中におけるベンチ及び応援席からの選手・審判員に対する悪質な抗議・野次等を発するチームには、当事者又はチーム責任者、監督の退場を大会責任者、球場責任者、当該審判が命じることができる。
2. 相手チームの投手の投球時及び打撃中の大きな声出しは、ベンチ、コーチャー、応援席ともアンフェアな行為として禁止する。
3. 各チームの応援団並びにベンチは、相手チームの気分を害することがないように少年野球にふさわしい応援で臨むこと。
4. 大会球場の使用にあたっては、選手・指導者・父母関係者ともに公共施設使用であることを十分に理解し、美化や使用上の注意事項、マナー、エチケットなどは十分に留意すること。

第 9 条 特別延長戦

1. Aブロックは 6 回終了後又は 1 時間 30 分を超え、Bブロックは 5 回終了後又は 1 時間 15 分を超え、後攻の攻撃終了時で同点の場合は、特別規則を適用し、直ちに「特別延長戦」を実施する。
2. 打者は、前回の継続打者、走者は前回の最終打者が 1 塁走者として、2 塁、3 塁の走者は、順次打者が走者として 1 死満塁で 1 イニングを行い、得点の多いチームを勝者とする。
3. 勝者が決定しない場合は、さらに継続打順で 1 イニングを行い、なおも勝者が決定しない場合は、抽選とする。
(※抽選方法は、大会本部、責任審判員の指示に従う)
特別延長中の降雨・日没については全て抽選とする。(決勝戦も同様)
4. 特別延長戦では、選手の交代は認める。ただし、特別延長戦に入る前に、既に交代した選手の再出場は認めない。

第 10 条 附 記

1. 各試合会場のアップ会場に入る場合はメンバー表を本部席に提出してから入ること。アップ会場に入る指導者は(県未登録者は不可) チーム帽子を着帽しユニフォーム又はトレーニングウェアを着用し、短パン・サンダル履きは禁止です。(スパッツに短パンも禁止です。)
その他「大会開催時のアップ会場利用に関する規定」を参照してください。(連盟ホームページ掲載)
2. 申告故意四球(申告敬遠、野球規則 5.05(b)(1))を採用する。適用方法は以下の通り。
守備側 : 申告は監督から球審に申告する。連続して行う場合、最初の申告時に申し出ることできる。
攻撃側 : 当該打者は一旦必ずバッターボックスに入る。
球 審 : 球審はタイムをかけ打者に 1 塁を与える。

第 11 条 その他

1. 大会中の負傷については各チームで責任を持って処置すること。
2. 試合開始時間は、あくまでも目安である。前試合がコールドゲームまたは天候等によって、試合が早まる場合は、次の試合の開始時刻が早まるので、球場責任者の指示に従うこと。また、日没・天候の不安等が予想される場合も同様とする。
3. 総会、抽選会等に出席することの出来るのは、代表、監督、代表権のある指導者とする。その席で説明された事項は必ずチーム関係者に周知すること。

本規則は 2023 年 4 月 4 日より適用する